

小論文

注意事項

- 1 問題用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 問題は、問1および問2の2問があります。必ず2問に答えなさい。なお、答えは解答用紙を用い、横書きとします。
- 3 問1および問2のいずれも、解答用紙の字数内でまとめなさい。
- 4 下書き用紙は、余白を含めて自由に使用してかまいません。試験終了後に、解答用紙とともに提出しなさい。
- 5 小論文の問題用紙は、試験終了後、持ち帰りなさい。

【問題】 次の二つの文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A 語彙の学習指導を考える時、決まって思い起こされる言葉がある。進化論で歴史に名を刻んだダーウィンの「子供の個性の確立も、その子供の知恵の発達も、言葉の発達に左右される。」という言である。子供の言葉の発達は、語彙の拡充と歩みを共にしているから、語彙の学習は、教育の目的である人間形成にかかわる重要事であるとも言えることができる。

① 語彙の獲得・拡充を促す言語経験に思いを至すと、家庭や地域社会とのかかわりがまず想起されるが、語彙の深まりが期待できるのは何と言っても学校生活での学びの場である。

学校は、子供にとっての小さな社会であり、学び合い助け合う生活の中で様々なコミュニケーションを生み出す。中でも学習中に生まれるそれを「学習コミュニケーション」と呼ぶならば、それは主体的で対話的な学びにつながる言語行動を促すものであると考えられる。この学習コミュニケーションは、学習の対象によって対他的なもの和对自的なものに分類される。対他的な学習コミュニケーションとしては、人と関わる対人、事柄とかかわる対事、言葉とかかわる対辞等が考えられる。友達や先生や地域の人、先人などとの対話にとどまらず、学習材や話題・題材、核とする言葉等々との対他的コミュニケーションの広がりを展望することができよう。これに自問自答、内言などによる対自的コミュニケーションが重なれば、語彙は更に広がり、語彙によって開かれる世界も広がろうというものである。

このような対話的な学びと、主体的な学びの過程とのかけ算によって生まれるものこそ深い学びである、と言うべきではないか。この深い学びへ至る過程を意図的、計画的、継続的に仕組むことが、語彙の学習指導にも求められているのだ。そう考えて、理解語彙が拡充し、使用語彙、表現語彙として昇華していく国語単元学習を創造していきたい。

(大内敏光、「月刊国語教育研究」、日本国語教育学会、2019年7月、全文引用、一部改変。)

B AI (人工知能) の開発、進展が目覚ましい。今後ますます精密化、迅速化されていくであろう。その進展に伴って AI にはできない人間固有の頭脳の働きなどが浮き彫りになってくることを期待している。構想力・想像力・思考力などの脳の働きは人間固有のものである。その働きは言葉に依存している。

私たちは頭の中に精巧な言葉の機織り機を持っている。機織りはヨコ糸とタテ糸からできている。縦書きの文章を想定した場合、ヨコ糸は語彙で、タテ糸は語彙と語彙を結ぶ統語(文法)である。前者のヨコ糸は、とりわけ構想力や想像力に深く関係しているように思われる。その語彙を一本の線としてタテに結びつけていく力が叙述力であり、そこに緻密な論理が生まれてくる。まとまりをもった話をする時や、文章を作成する際、課題に応じて頭の中にヨコ糸の語彙が浮かび上がってくる。語彙は増えていき、拡散していく。それは拡散的思考の過程である。拡散が進むと同時に、課題から外れた語彙は捨象されていく。収斂的思考の働きである。語彙を手掛かりとして、拡散的思考と収斂的思考が繰り返されていく。これが構想の過程である。その過程は、人間独自の働きであり、しかも一人ひとりの個性が発揮され、主体的意味が創出されていく過程である。

ヨコ糸の語彙と語彙を関係づけていく過程は、点と点を関係づけ結びつけていく過程である。最初は点線の状態である。日本の短歌や俳句は、点と点を立体的に構想した言語作品で、そこに多義的な妙味を醸し出している。文・文章の場合には、その点線の状態を実線化していく過程である。点線の状態でも論理は働いているが、実線化の過程に緻密な論理的思考が必要になってくる。② 語彙力とはたんに辞書的に語彙を貯蔵しておくことではなく、個性的に関係づけていく力である。語彙を取捨選択し、語彙と語彙を関係づけていく点線化、さらに点線を実線化していく機織り機こそ、人間固有の脳中の優れた装置である。

(桑原隆、『月刊国語教育研究』、日本国語教育学会、2019年8月、全文引用)

問1 下線部(1)「語彙の獲得・拡充を促す言語経験に思いを至すと、家庭や地域社会とのかかわりがまず想起されるが、語彙の深まりが期待できるのは何と言っても学校生活での学びの場である。」とあるが、筆者はどのような対話的な学びを重視していると考えられるか。文章中にある「学習コミュニケーション」という言葉を用いて160字以内で説明しなさい。(30点)

問2 下線部(2)「語彙力とはたんに辞書的に語彙を貯蔵しておくことではなく、個性的に関係づけていく力である。」とあるが、そのような語彙力を育成するために、あなたはどのような工夫すればよいと考えるか。二つの文章を踏まえながら、800字以内で述べなさい。(70点)